

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	S2608
代表機関名	琉球大学
主担当研究者所属部局	理学部海洋自然科学科生物系
関連研究分野	生物多様性・分類
主担当研究者	James Davis Reimer
事業名	海洋生物多様性の進化生態学的形成プロセスと保全に関する国際共同研究

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 10 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 3 名（ポスドク 3 名＝354 日、379 日、701 日となった。 ・計画していた 15 名の招へいに対し、最終的に 9 名の招へいとなった。 ・派遣研究者数と招へい研究者数は、計画と比べて大幅に少なくなったものの、派遣された 3 名の若手研究者は、それぞれが持つ基礎研究の実績を活かしたアプローチで優れた研究成果を上げ、招へいされた研究者も野外調査やセミナー、学会での講演等を通して期待された役割を果たした。また、招へいにより応用を見据えたシンポジウムを開催している。 ・世界をリードするオーストラリア・クイーンズランド大学の研究グループを中心とする人的交流を通して、国際研究ネットワークの構築・強化という目標は概ね達成されたと評価できる。 <p>以上のことから、期待される成果について概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ礁生物学の基礎研究を生物多様性の保全という応用研究に統合する、という本事業の目的において、10 の個別課題について幅広い共同研究が展開され、それぞれについて一定の成果が上がったと言える。特に、様々な海洋生物群から得られた進化生態学的基礎研究の成果に加えて、サンゴ礁生物多様性の保全戦略・具体的な環境保護区に関わる研究成果を出している。 ・本事業の直接の成果で、国際共著論文として既に発表されたものもいくつか見受けられるが、多くは未発表であると思われ、今後は更に論文発表を進めるとともに、一般社会に対しても本事業の成果をより積極的に発信していくことが望まれる。 <p>以上のことから、期待される成果について概ね達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 4
コメント

・海洋生物多様性とその保全は全地球的な課題であり、今後の研究の発展には国際研究ネットワークの強化が不可欠な分野である。本事業を契機に新たに開始された国際共同研究プロジェクトが10件あり、更に準備中のものがあること、その中には本事業の相手先研究機関とは別の研究機関との共同研究も多く含まれており、琉球大学をハブとする国際研究ネットワークの更なる広がりが期待できる点は高く評価できる。

・主研究者が元来この分野を我が国で主導してきた事に加え、関連したプロジェクトで競争的研究資金の獲得が図られているほか、本事業で派遣された若手研究者も自身で国際共同研究を立ち上げるなど、引き続き今後の活躍が大いに期待できる。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 3

コメント

・本事業は、個別に行われてきた海洋生物多様性に関する基礎研究の成果を保全研究に活かしていく上で、派遣された3名の若手研究者がそれぞれの研究基盤を活かして優れた研究成果を上げたこと、招へい研究者の貢献も含めて数多くの個別課題に関して国際共同研究としての成果が得られたことに加え、琉球大学を中心として今後の継続性・発展性が見込める国際研究ネットワークの構築・強化の点で高く評価できる。

・目標は達成したものの、派遣研究者数及び招へい研究者数が計画より大きく減少したことは残念である。

・社会的関心の高い研究分野であることから、今後は本事業の成果を国際共著論文として発表するとともに、一般社会への発信を積極的に行うこと、当該分野の将来を担う若手研究者のより幅広い育成を図ることが強く望まれる。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【Ⅰ（１）、（２）】

4＝十分達成している 3＝概ね達成している 2＝ある程度達成している 1＝ほとんど達成していない

【Ⅱ、総合的評価】

4＝高く評価できる 3＝概ね高く評価できる 2＝ある程度評価できる 1＝ほとんど評価できない